

# 島根大学で学修指導を 担当するみなさんへ

— T A ・ ピアサポーター ハンドブック —

## 【このハンドブックの内容】

1. このハンドブックについて .....	1
2. T A について	
(1) T A 制度の目的 .....	2
(2) T A の役割 .....	3
3. ピアサポーターについて	
(1) ピアサポート、ピアサポーターとは .....	4
(2) 島根大学での様々なピアサポート活動 .....	5
4. 学修指導にあたって	
(1) 報告・連絡・相談 .....	10
(2) 個人情報の保護 .....	12
(3) 指導相手への接し方 .....	13
(4) コンプライアンスについて .....	15

---

# 1. このハンドブックについて

---

島根大学では、学生によりよい大学教育を提供するために、ティーチング・アシスタント（以下、T A）による教育補助業務や、メンター・学習サポーターなどピアサポーターによる学修支援がおこなわれています。

このハンドブックでは、これらの業務に携わる経験がより充実したものになることを願って、T Aやピアサポーターの役割、および学生指導上の留意点などをまとめました。T A・ピアサポーターは、島根大学の教育活動を担う教育スタッフの一員です。そのため業務上の様々な義務も生じます。このハンドブックの内容を十分に理解して業務に当たっていただきたいと思います。

また、T A・ピアサポーターを務める方にとっては、その経験は教育者や指導者としてのトレーニングの機会にもなります。将来、社会に出て後進の指導に当たったりする際に、きっと役立つことでしょう。さらに、下級生に学修指導をおこなうことで、自らが学修してきた内容を振り返り、知識を定着することもできます。指示された業務をこなすだけでなく、経験を積み、自らを高める機会でもあることを意識して業務に取り組んでみてはいかがでしょうか。

このハンドブックを活用することで、より質の高い教育が島根大学の学生に提供されること、T A・ピアサポーターのみなさんが有意義な経験を重ねてくれることを期待しています。



---

## 2. TAについて

---

### (1) TA制度の目的

TAとはティーチング・アシスタントの略であり、島根大学では「国立大学法人島根大学ティーチング・アシスタント実施要項」において、次のようにその目的を定めています。

第1条 この要項は、島根大学大学院の学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対して謝金を支給することにより、大学院学生の処遇の改善に資するほか、大学教育の充実及び教員、研究者になるためのトレーニングの機会をを図ることを目的とする。

この「実施要項」にしたがって、教育補助業務を担う大学院生をTAと呼びます。要項に記されているように、その目的は①**大学院生の処遇の改善**、②**大学教育の充実**、③**教員、研究者になるためのトレーニングの機会の提供**の三つを掲げています。

目的の①には、「処遇の改善」とあります。TAには業務を担当した時間に応じて謝金が支給されますので、大学院での自らの研究生生活を送るために役立てて欲しいということです。研究生生活を送るためには、資料・機材を購入したり、調査に出かけたりと様々な費用が必要です。もちろん、日々の生活にかかる費用もあります。大学がその全てを提供することはできませんが、TA謝金が経済的支援の一助となればと考えています。一方で、謝金が支給されるということは、業務に対する一定の責任も発生するということを理解して下さい。

また、大学院生がTAとして授業の補助業務を担当してもらうことによって、教員は様々な教育方法を実施することができるようになります。目的の②には、TA制度を構築することで、島根大学の学生に提供される大学教育を充実させたいという願いが込められています。大人数の学生が受講する授業や、実験等受講生の学修手順をきちんと監督しなければならない授業など、一人の教員が学生全てに目を行き届かせるのは難しいこともあります。もっときめ細やかに指導したい、指示をしっかりと伝達したいなど、教員が考える理想の授業に近づけるために、TAのみなさんにはそのお手伝いをしていただきたいと思います。

目的の③は、今後研究者や教員を目指す大学院生に、大学教育の実際を経験してもらうことがあります。TAとして授業運営を補助することは、どのように大学の授業が設計され、学生教育がおこなわれているのかを理解する機会でもあります。大学院修了後の進路は様々ですが、将来的に大学の教員・研究者になろうとする人、あるいは中学校・高等学校の教員になろうとする人にとっては、教育を経験する絶好の機会と言えます。また、企業等への就職を考えている人にとっても、これからのキャリアの中で教える側となる場面が多くあることでしょう。その意味でも、大学におけるTAの経験はみなさんの将来に必ず役に立つものと考えられます。

## 2. TAについて

### (2) TAの役割

上に述べた目的に従って、TAは「授業担当教員の指導及び監督の下に教育補助業務に当たる（「実施要項」第4条）」こととなっています。「実施要項」が定めるTA業務の範囲は、下に記すとおりです。

- ①授業（講義、実験、実習、演習等）の実施に係る補助業務
- ②前号の授業の実施に係る一連の準備及び片付け
- ③授業に係る宿題及びレポートの採点、添削、指導等の補助業務
- ④その他学長が適当と認める補助業務

①は、TAを担当する授業時間中に補助業務を指示されることがあるということであり、②は授業時間前後に準備や片付けなどの業務もあり得るということです。そして③は授業で学生に課された課題等に対して採点や添削、指導をおこなう場合があるということです（④学長が必要と認めた場合には他の業務を担当する可能性もあります）。「実施要項」は業務内容の大枠を定めていますが、具体的には下のような業務を担当することが考えられます。

教材用の資料収集補助	課題・レポートの回収・整理
教材作成の補助	課題・レポートの採点・添削補助
教材の印刷	見学先等への学生の引率補助
教材の配布	授業中の活動時間等の管理
受講者の出欠確認	実験・実習・演習等の指導補助
使用機材の準備・片付け	学生と教員との連絡仲介
使用機材の操作補助	など

ここにあげたものは、業務内容の一部を例示したに過ぎません。TAの業務内容は授業によって異なりますので、担当する授業が決まったら、必ず担当教員に業務内容を確認し、自分がどのような役割を担うのかの指示を受けて下さい。また、各回の授業前にも、次の授業回ではどのようなことをおこなうのかを確認し、業務を円滑におこなえるように準備して下さい。

なお、「実施要項」に定められたもの以外の業務については、たとえ授業担当教員から指示があったとしても従う必要はありません。もし、授業とは無関係の業務を指示され、断りづらい場合は、別の教員や事務職員等に相談して下さい。

---

## 3. ピアサポーターについて

---

### (1) ピアサポート、ピアサポーターとは

ピアサポート (peer support) の peer には同じ位置にある「仲間」や「同僚」という意味があります。本学では、大学院生であれ学部学生であれ、大学で学修する「仲間」同士が互いに学びあい、高め合う関係を築くことを意図して、部局ごとに様々なピアサポートプログラムを実施しています。互いに学び合う関係の中で、主に学修支援を提供する側をピアサポーターと呼んでいます。一口に学修支援といってもその範囲は広いのですが、例えば、後輩・下級生からの大学での学修上の疑問点に答えたり、相談に乗ったり、指導や助言を与える側の先輩・上級生がピアサポーターにあたります。また、場合によっては同学年であっても主にサポートする側と、サポートされる側に回ることもあるでしょう。

ただし、ピアサポーターは一方的に支援を提供し続ける側ではありません。例えば、後輩学生から授業で分からなかったことの質問を受けてそれに答える過程で、指導相手への接し方を身につけたり、自らもこれまで学んできた内容を振り返り、知識を定着させることもできます。ピアサポートにおいては、サポートする側にもされる側にも互いに学びがあることが期待できるのです。

「仲間同士の支えあい」というピアサポート本来の意味に従えば、ピアサポートは島根大学のいたるところに存在します。部活やサークル等の後輩や、同学年の友人の進路相談にのってあげること、学生同士の自主ゼミや勉強会等で互いの研究を高め合うこと、授業時間中に支援が必要な人に手をさしのべることなど、自主的・自発的なピアサポートの関係もあります。ただし、本学では、学部等の組織で教育上の必要・目的があってピアサポートを実施している場合、TAと同様に、ピアサポーターに対しても謝金を支給しています。

次にこうした活動のいくつかを示します。

## 3. ピアサポーターについて

(2) 島根大学の様々なピアサポート活動

①法文学部のピアサポートプログラム

### 上級生による新入生履修指導

#### 【目的】

入学直後の1回生が順調に大学生活を始められるよう、履修の組み方、教室の場所、空き時間の過ごし方、2回生以降の専門の内容など、授業や大学生活全般にわたってマンツーマンによるアドバイスを行います。法文学部3学科すべての研究室から上級生が参加するので、1回生のあらゆる質問に対応できるようになっています。上級生が自己の体験と蓄積をいかし、ノウハウを伝授することにより、自らも刺激をうけ学生生活を内省する機会としています。



#### 【活動内容】

ピアサポーターに対する事前指導

入学ガイダンスにおける個別履修指導

履修登録期限までの1週間、昼休みと放課後に「履修相談室」を設け、訪れる1回生に個別相談を行います。法経学科の初年次教育「入門演習」において上級生が履修相談を行います。

#### 【学生の声】 サポートを受けた学生

(言語文化学科 1年)

ガイダンスで一応の説明はうけていたのですが、実際に時間割を組む時になって、いろいろ分からないことがあって困っていました。上級生の方がすぐ来てくださって、とても分かりやすく説明していただき、何とか時間割を組むことができました。教員の方が説明しなかった、細かな注意点も教えてくれたのが、とても印象的です。

また私は、高校国語の教員免許資格をとろうと思っていましたが、専門の勉強と両立できるか不安でした。これについても、別の上級生の方が、詳しく教えてくれ、不安がなくなりました。とても助かっただけでなく、私もこんな上級生にならないといけないなと強く感じました。

#### 【学生の声】 サポートをした学生

(社会文化学科 3年)

自分が1回生の時に、履修の仕方がすぐには理解できなかった体験を思い出しながら、できるだけ分かりやすく指導しようと努めました。ピアサポーターの事前指導の時に、毎年よく出る質問の一覧表を渡されており、基本的にはそれで対処できましたが、結構想定外の質問も受けて苦労しました。

「履修相談室」でも対応しましたが、こちらは比較的一人の学生に時間をとれるので、ゆっくり説明できました。どの専門に進むか迷っている学生がいましたが、ちょうど自分にもそのような体験があったので、それをいかしてアドバイスできたと思います。1回生は、授業のこともそうですが、アルバイトやサークル活動など大学生活そのものにも関心が大きいので、大学のガイダンスでは対応しきれない部分に対応できる制度だと思えますし、学部の後輩に教えるのでやりがいもありました。

## 3. ピアサポーターについて

(2) 島根大学の様々なピアサポート活動

②教育学部のピアサポートプログラム

### 入門期セミナーIにおける新入生への支援・指導

#### 【目的】

「入門期セミナーI」は教育学部入学直後の新入生が体験する一泊二日の宿泊型研修です。このセミナーは「教育体験活動『1000時間体験学修』の全体像を把握し、大学生生活4年間の教育体験活動に対する見通しを持つ」と「これから学生生活を共にする同級生と交流を深め、円滑な人間関係を築くきっかけにすると共に、島根大学教育学部生としての自覚を高める」の2つの目的を持ち、その企画・運営の全てを2、3年生のピアサポーターが行います。上記の目的を達成するために様々な研修を準備し、新入生と交流する中で、彼らの緊張や不安を解消していきます。

#### 【活動内容】

- 研修1…1000時間体験学修における教育体験の意義について (90分)
- 研修2…基礎体験活動の流れについて (60分)
- 研修3…出会いの場と仲間づくり (90分)
- 研修4…大学生の一般常識とマナーを考える (60分)
- 研修5…基礎体験及び大学生活についてのディスカッション (90分)
- 研修6…振り返り・基礎体験用紙の記入及びアンケート (60分)



#### 【学生の声】 サポートを受けた学生

(I類 1年)

▶先輩方のユーモア溢れる劇で、それまでぼんやりとしていた1000時間体験というものをしっかりと理解することができた。「卒業したいから」でなく「卒業した後に活かしたいから」という意識をもつことができた。

▶2年生の学生スタッフの話を聞いて1年間という時間は、こんなにも人を成長させることができるのかと驚きを隠せなかった。何度も何度も丁寧に説明を受けた1000時間体験を理解し始めた時、先輩方の姿を見て、「なるほど、何故先生・先輩方が胸を張ってこのカリキュラムが素晴らしいと言うのか、自分から取り組めば取り組むほど価値のあるものになるのか」ということが分かった。

▶大学生生活は、予想以上に大変なスタートで、不安と戸惑いでいっぱいだったが先輩たちの熱心な説明と経験談を聞いて、教育学部のカリキュラムはすごく魅力あるものだということが分かった。この2日間は大学生としての基礎が築けたと思う。

#### 【学生の声】 サポートをした学生

▶1年生に教育学部のことをよく知って、仲間意識をもってもらうためにレクの企画をしたり、1年生のサポートをしたりすることができた。また、他のスタッフと一緒に企画運営をしていくことを通して、改めて1000時間体験学修の意義について深く考え、刺激を受けた。

▶担当したグループの1年生が研修を終えるたびにより仲良くなる様子が見られ嬉しかった。1000時間体験についても1年生と話す中で理解してくれたことが分かったので良かった。

## 3. ピアサポーターについて

(2) 島根大学の様々なピアサポート活動

③総理工学部のピアサポートプログラム

### メンター制度

#### 【目的】

総理工学部では、新入生が抱える様々な不安や問題を解決し、高校の学びから大学への学びへのスムーズな移行をはかることを目的に、先輩が後輩の学習や大学生活を支援するピアサポートである『メンター制度』を実施しています。この制度は新入生に限らず、2年生や3年生も利用することができます。実施時間帯には、教員も参加することが多く、新入生から上回生、教員も含めた共通の『学び場』となっています。



#### 【学生の声】 サポートを受けた学生

(物質科学科 物理分野)

私は実際にメンターに初めて行ったのは5月半ばあたりでした。最初は一人で行ったので、正直自ら進んで質問できるか不安でしたが、メンターさんの方から「わからないことある？」と声を掛けていただいたおかげで、質問したかったことが聞け、わからなかった箇所がしっかりと明確になり理解することができました。授業でわからなかったことを直接的に先生の部屋に行くことが苦手な人や、わからなくて長時間考え込む人には、是非ともメンター制度の利用をお勧めします。メンター制度を活用することで勉強での時間効率も上がりますし、自分が聞きたい以上の情報など+で提供してくれるのでデメリットはないと思います。またメンターに行くことを習慣付けておくと日頃の勉強に対する習慣もまた身につきます。

#### 【活動内容】

成績・人格ともに優秀で後輩たちの目標となるような大学院生や学部4年生を各学科で数名人選し、メンターとして委嘱しています。主に1年生や2年生のメンティたちは、決められた曜日・時間帯に講義室などで、授業の宿題やレポート課題などの学習面での指導をメンターや教員から受けることができます。また、メンターは後輩たちの大学生活での疑問や就職・進学などの進路面での相談にも親身になって助言してくれます。具体的な内容は学科によって異なります。例えば、数理・情報システム学科数理分野では、毎週月曜日と木曜日の特定の時間帯に学習室を設けています。毎回50人以上のメンティたちが宿題やレポート課題を持って参加しています。ここでは、メンターはメンティに単なる答えや解法を教えるのではなく、その宿題やレポート課題の目的や趣旨を説明し、メンティが自分で考える手助けをしてくれます。最近では、学習室に参加するメンターではない3年生や4年生が自主的に後輩を教えるという伝統が生まれつつあります。

#### 【学生の声】 サポートをした学生

(機械・電気電子工学コース)

メンター制度はいい制度だと感じました。勉強が苦手な学生、授業についていけない学生に個別で教えることによって、確実に理解度が高まったようでした。特に、メンター指導を受けに来る後輩たちは、教授に質問しに行くのが苦手な学生も多く、気軽に話せる雰囲気でのメンター指導は助かっていたのではないかと思います。また1回生は授業に対しての不安も多く、メンター制度を利用して、今後のことについて相談してくる新入生も多かったです。そういった人生相談をできる場としてもメンター制度は有用であると思います。

## 3. ピアサポーターについて

(2) 島根大学の様々なピアサポート活動

④生物資源科学部のピアサポートプログラム

### 履修サポート・学習サポート

#### 【目的】

生物資源科学部では、授業内容や課題などがうまく理解できない学生に、その科目が得意な学生が学習サポーターになって学生同士で教え合うピア（仲間という意味）サポート活動をしています。また、例年履修登録時に科目選択に悩む新生が多く、新学期開始から1週間、履修サポーターが新生の興味や資格取得希望などを聞きながら丁寧に個別指導しています。こうした活動は、学生の自発的、自立的活動を促進する効果が高いと考え、今後も発展的に継続していけるよう学部と大学が協力して支援していきます。

#### 【活動内容】

各学科、教育コースでのオリエンテーションに加え、上級生のピアサポートによる新生・編入生向けの履修サポートを4月の履修登録期間中に実施しています。毎年、約50名の利用があり、履修サポートに対するアンケートの結果では、大変役に立った、という意見がほとんどです。履修サポート期間の後には、上級生のサポーターによる学習サポートを実施しています。サポートを希望する学生は、掲示に従いサポートを受けたい科目と希望する日時を担当のサポーターに伝え、その後、原則として図書館のラーニングcommonsで当該科目の成績優秀者によるサポートを受けます。また、前期及び後期の定期試験前1週間は、生物資源科学部3号館のマルチメディア室で複数のサポーターが待機して、サポートを希望する学生を支援します。サポートの内容は、苦手科目の学習指導のみならず、レポートの書き方から授業の受け方、進路や学生生活の相談等、幅広く援助を行っています。先生には聞きにくいということも学生同士だと相談しやすいようで、利用者からはまた利用したいといった声も多く聞かれます。例年、延100名を超える学生の利用があり、学習サポートに対するアンケートによる満足度調査では、10点満点で平均値が9点以上となっています。また、サポートを受けた科目の単位修得率は90%以上となっています。今後も、学生がより利用しやすい環境づくりを行い、実施方法なども改善しながら、ピアサポート活動を推進していきます。



#### 【学生の声】 サポートを受けた学生 (利用者アンケートより抜粋)

- ▶分からないところを丁寧に教えてもらえた。
- ▶先輩がサポートしてくれるので聞きやすかった。
- ▶色々な話を聞いてとても楽しかった。
- ▶授業で不安なところが解消されてとても良かった。
- ▶分からないところと一緒に考えてもらえた。
- ▶勉強の仕方や授業の内容まで幅広く教えてもらいとても良かった。
- ▶一方的に教えてもらうのではなく、解き方を教えてもらったので分かりやすかった。
- ▶気軽にわからないことを聞くことができるのですごく良い制度だと思う。

#### 【学生の声】 サポートをした学生 (地域環境科学科3年)

私たちは、入学したばかりで誰に相談したら良いかわからない人や、先生には話しかけにくい人、講義で理解できなかったこと、テスト前でわからない問題があるといった学生にとって気軽に相談することができるサポーターとして活動しております。履修サポートでは、主に1・2回生を対象に履修のしくみや登録方法の説明を行います。また必修科目から教養科目、その人が興味のあることを学べる講義などを勧めたり、一緒に履修を組むことを行っています。学習サポートでは主にテスト期間に行い、講義で理解できなかった点、わからなかった点の解き方を教えたり、一緒に考えるということを行っています。図書館のように勉強をする場所として利用でき、わからない点は質問できる、非常に学びやすい空間になっていると思います。

## 3. ピアサポーターについて

(2) 島根大学の様々なピアサポート活動

⑤附属図書館のピアサポートプログラム

### 図書館コンシェルジュ

#### 【目的】

この取組は、学生の図書館利用を学生自身が支援することにより、図書館を学生が学びあう場として、また、学生を支援したり、図書館の業務の一部を担うことによるキャリア形成支援の場として図書館活動の再構築を図ろうとするものです。この活動により、図書館利用を活性化させ、学生の学術情報を使う力、いわゆる学術情報リテラシーの育成を支援するとともに、サポートする側に立つ学生のキャリア形成を支援することを目的としています。



#### 【活動内容】

図書館コンシェルジュは、図書館利用のサポートと図書館の活性化のための自主企画活動の2つを中心に活動しています。図書館利用サポートは、サービスカウンターで質問への対応を行うなど図書館利用のサポートを行うもので、このほかに、オープンキャンパスや高校生の大学訪問時などに館内ツアーを随時実施しています。図書館利用サポートは、利用する学生と年齢が近いコンシェルジュが対応することで、質問しやすく親しみやすい環境を提供することができます。よりよい対応ができるように日々研鑽をつんでいます。

自主企画活動は、図書館の活性化のための様々な活動を企画して実施するものです。図書の企画展示“ブックコンパス”やニュースレターLiMeの編集・発行、留学生と日本語の会話を楽しむ“ただ日本語で話す@ラーニングコモンズ”、松江市立図書館からの団体貸出図書の選書、教職員・学生をゲストスピーカーに招いて交流を図る“ラーコモカフェ”の開催など多彩な活動を展開しています。

この他、全国の大学図書館で活動する学生たちが交流する“学生協働交流シンポジウム”に実行委員として企画に参加したりしています。

#### 【学生の声】 サポートをした学生

(法文学部言語文化学科 1年)

中学校以来久々に図書にかかわる仕事をして、中学や高校よりも企画に重きを置いたことで本の貸し借りだけではない企画の面白さに気づくことができました。一時期いろいろ忙しくなって一年でやめようかと考えた時もありましたが、一年続けて企画が成功したときのうれしさやレファレンスでうまくいった時の感動を知って、もっとコンシェルジュとしていろいろとかかわりたいと思うようになりました。来年度も今年度の反省を活かして頑張ります！

---

## 4. 学修指導にあたって

---

ここではTAやピアサポーターとして、学生を指導する立場に立った時の心構えや、注意しなければならないこと、禁止事項などを記します。よく読んで内容を理解し、学生に接するようにして下さい。

### (1) 報告・連絡・相談

いわゆる「ホウ・レン・ソウ」と呼ばれるもので、TA・ピアサポーターに限らず、社会人として他者と一緒に仕事をしたり、生活を送る上で必要不可欠な事柄です。島根大学の教育は、教員・職員、TA・ピアサポーターが一体となって取り組むものです。何か出来事があった場合に、それを自分だけで処理せず、一緒に教育活動にあたる人々に伝えることが大切です。

#### ①連絡・報告は大切

TA・ピアサポーターともに、その日の業務のなかで学生に接していて気づいたことや感じたことなどを、監督者の教員や、ピアサポーターの仲間に報告するようにしましょう。自分一人の心の中に留めておくのではなく、他の人と共有することで、授業やピアサポートの活動をよりよいものにしていくことができます。

また、TA・ピアサポーターを務める方は本学の教育に携わる一員となりますが、本来は大学院生・学部生として本学で学修・研究をおこなう身分でもあります。TA・ピアサポーターとしての業務が、自らの学業に支障をきたすようであれば本末転倒です。自らの学業を優先し、適切な業務量・内容を調整しながら、TA・ピアサポーターの活動にあたって下さい。例えば、来週学会発表が控えている、教育実習があるなどの事情があれば、担当教員や仲間に伝えて業務を調整しましょう。そのためにも、関係者と日常的に報告・連絡できるような関係づくりを心がけましょう。

なお、無断での遅刻や欠勤は、教職員や他のTA・ピアサポーターだけでなく、指導を受ける学生に大きな迷惑をかけることとなります。業務を休んだり、遅れたりしなければならない事情があれば、事前に担当教員や仲間に連絡して下さい。

---

## 4. 学修指導にあたって

---

### ②困ったら相談

T Aやピアサポーターの業務をおこなう中で、学生から受けた質問や相談については、自分で判断できることであるのかどうか（判断材料や基準を自分が持っているかどうか）を考えてから対応するように心がけて下さい。

例えば、T Aに対して「来週の授業は休講ですか？」などの質問があり、授業で以前から教員が来週は休講である旨を受講生に周知していた場合には「休講ですよ」という回答を与えても、後々トラブルにつながることはまずありません。一方で、「レポートは何字程度書かなければいけないのですか？」という質問があり、自らの過去の経験に基づいて推測し、「毎年1000文字以内ですよ」と断定的に回答すると、後で授業担当教員の指示と異なる場合もあります。また、自分では正解がよく分からない演習問題の解き方について質問を受け、「たぶんこうだろう」という推測に基づいて解法を教えたりすると、間違っていたり、教員の教え方と異なっていたりする可能性もあります。質問を受けたら、まずは自分が判断して回答できるだけの情報を持っているのかどうか、判断基準は自分に委ねられているのかどうか、回答する前にちょっと立ち止まって考えてみて下さい。

T Aは、授業担当教員の監督の下で教育補助業務にあたります。多くの場合、教員が側にいるはずですから、基本的にはその指示に従って業務を進めることとなります。教員が学生やT Aに指示を与えていないことを伝えたり、過去の経験や推測に基づいて回答するのではなく、自分では分からないことがあれば担当教員に確認してから学生に接するようにしましょう。

一方、ピアサポーターの場合、例えば学習室での授業時間外の学修指導など、教員がその場にはいないこともあります。回答に困るような相談・質問があれば、その場にいる別のピアサポーターの仲間に相談したり、サポート時間が終わってから教員に相談するなどして下さい。学生には「私にもわからないから、一緒に考えてみようか」「〇〇先生に聞いてみるので、来週まで回答を待ってもらえるかな？」などと応えてよいのです。ピアサポートは、大学で学修する仲間同士の支えあいです。同じ学修途上にある仲間同士、「知らない」「分からない」と答えることは恥ずかしいことではありません。

---

## 4. 学修指導にあたって

---

### (2) 個人情報の保護

TA・ピアサポーターとしての業務においては、学生の個人情報を取り扱うことがあります。個人情報とは、特定の個人を識別することができる情報のことであり、氏名・住所・生年月日はもちろん、学生が記した試験の答案、成績評価などもそれに相当します。また、大学で付与される学生番号など、一見しただけでは個人を識別できなくても、他の情報と組み合わせることによって個人を識別できるものも個人情報にあたります。

例えば、TA業務として、学生の課題の提出状況をチェックするように教員から指示され、学生番号と氏名の書かれた名簿を受け取ったとしたら、それは個人情報に相当します。また、ピアサポーターとして指導した学生個人の面談記録を残したとしたら、それも個人情報となります。

こうした個人情報は、それを取り扱う目的を外れて利用してはならないと法律で決まっております。違反者は処罰の対象となります（「個人情報の保護に関する法律」）。授業実施等、大学教育のために取り扱う個人情報であれば、その目的を外れた利用をしてはなりません。上の例に記した学生名簿を、サークル行事への出欠確認に用いるなど、授業以外のために利用することは法律で禁じられているのです。

また、意図せずに個人情報が流失してしまうこともあります。エクセルファイルの学生名簿をUSBメモリーに保管していたが紛失してしまった、コンピュータに保存していたがウィルスに感染して流出してしまった、ということも起こります。あるいは、紙に記された名簿を業務が終わった後にゴミ箱に捨てたが、無関係な人間に拾われて持ち出されてしまった、ということもあります。

本学では「国立大学法人島根大学個人情報取扱規則」を定め、勝手に個人情報を複製したり、外部に持ち出したりすることを禁止しています。例えば、学生の課題提出チェックを自宅でおこなうためにUSBメモリーにデータを入れて持ち出すことはできません。個人情報を取り扱う場合は、大学の中でおこなうようにして下さい。用事があって大学内で作業する時間がないなど事情があれば、自己の判断で対応するのではなく、担当教員・監督者に必ず相談して下さい。

また、TA・ピアサポーターとしての業務において取り扱った個人情報については、業務終了後は担当教員や監督者に必ず返却するか、その指示にしたがって再現不可能な状態で廃棄（シュレッダーで処分するなど）して下さい。

※参照：「国立大学法人島根大学個人情報取扱規則」

[http://www.shimane-u.ac.jp/\\_common/kisoku/1\\_zengaku/05\\_syomu/1-5-08.pdf](http://www.shimane-u.ac.jp/_common/kisoku/1_zengaku/05_syomu/1-5-08.pdf)

---

## 4. 学修指導にあたって

---

### (3) 指導相手への接し方

TA・ピアサポーターとして学生に接する際には、自らが指導的な立場にいる人物としてみられていることを自覚することが大切です。たまたま指導相手が同じ学科やサークルの後輩でよく知った関係であったとしても、その業務に従事している間は本学の教育を担う一員であることを意識して対応するようにして下さい。

#### ①正解に至る過程を支援する

指導相手の学生から授業でよくわからなかったことへの質問を受けた場合、安易に正解を伝えるのではなく、その学生自身が正解に至るような思考ができるように手伝ってあげて意識して下さい。「〇〇さん、この演習問題の答えがわからないのですが？」という質問を受けたとしても、「正解は〇〇だよ」と直接的に答えを教えてしまえば、その学生の学習になりません。どこがわからないのか、なぜわからないのかを指導相手の話を聴きながら探り、つまづいているポイントを把握するように心がけましょう。

#### ②話を聴く姿勢

指導の際には、自分が正しいと考えることを一方的に伝えるのではなく、相手の話を聞き出そうとする姿勢を意識してみましょう。「この人は私の話を聴いてくれている、理解してくれている」と感じてくれれば、相手も話しやすくなり、話す過程で自らの思考を整理することができます。「うん、うん。そうなんだ」と相づちをうちながら話を聴いてあげたり、厳しい表情をせずに相手を見てあげると、相手も安心して話すことができるようになります。

また、話を聴き出そうと矢継ぎ早に質問を投げかけると、指導相手が「私が悪いので問いただされている」と感じ、萎縮してしまうことがあります。次の質問をする前に「つまり、〇〇ということだと思ったのだけれど、それで合っているかな？」と相手の話を要約して確認してあげたり、相手の言ったことを繰り返してあげたりすると、相手にも考える余裕が生まれ、次の質問に対する準備ができます。

#### ③ハラスメントへの注意

TA・ピアサポーターを担当する学生のみなさんは、学修指導を受ける学生にとっては教職員よりも年齢が近く、身近な相談しやすい存在です。同じような学問分野を志す仲間でもあり、なりたい人物の目標となったり、互いに切磋琢磨し合うような存在でもあります。

しかし、TA・ピアサポーターの業務においては、指導する側とされる側という関係が発生することを理解して下さい。「関係が悪くなると教室・学習室にいづらくなってしまふ」「言うことをきかないと次から指導してもらえないかもしれない」など、指導を受ける側は、指導す

## 4. 学修指導にあたって

る側の言うことに従順にならざるをえないのです。

そうした立場の違いによって起こってしまうのがハラスメントです。ハラスメントにも様々なパターンがありますが、そもそもハラスメント harassment という言葉には「相手を苦しめること、悩ませること」という意味があります。自分が意図していようとまいと、相手が自分の言動によって苦しんだり悩んだりしてしまったとしたら、それはハラスメントになります。

例えば、指導する側という立場を利用して「指導してあげているんだから、私に〇〇をしてくれるよね」と見返りを求めてはなりません。指導の対価は大学から謝金として受け取るのであり、指導相手に直接求めるものではありません。また、指導を受ける側は「上の」立場からの求めを断りづらいのです。その言葉のせいで、大学での学修とは関係なく、精神的に追い詰められてしまうことがあります。また、見返りを求める意図がなくても、相手にそう受け止められる場合があることにも注意して下さい。たとえ日頃から仲の良い後輩であっても、「これが終わったら遊びに行こうよ」などと誘いかけると、相手は同様に断ることができず、悩んでしまうことがあります。

見返りを求める行為以外にも、室内で大声を発したり、業務と関係ない話で相手の学修を妨げたりして、学修環境を悪化させることもハラスメントに該当します。あるいは「男のくせに／女のくせにこんなこともできないのか」と、自己の偏見・性別役割意識に基づいて相手を差別する言動も、それを受け取る相手を苦しめることになります。

大学では、教職員・学生を含め、上下の関係や年齢・出身・境遇・考え方が異なる人など、様々な人々が集まって日々の仕事や生活を送っています。人間同士の関係が複雑になれば、ハラスメントが起こりやすい状況も生まれてきます。当たり前ですが、相手は自分とは違うのだということを自覚し、自分が相手にどのような存在として見られているだろうかと意識することを心がけて下さい。自らの言動が相手にどのように受け取られるかを想像することが、ハラスメント防止の第一歩です。

なお、もし自分自身がハラスメントの被害に遭っていると感じたら、その加害者と一対一で交渉してなんとかしようと思わず、第三者を介して問題を解決するようにして下さい。島根大学ではハラスメントの相談等に対応するため、ハラスメント相談窓口を設置しています。相談員は、ハラスメント相談員名簿の中から選ぶことができます。また、相談者が相談員と面談できるよう紹介・取次ぎ等を行う、ハラスメント相談受付担当者も配置しています。詳しくは下の URL を参照して下さい。

※参照：島根大学ウェブサイト

TOP > 大学紹介 > 理念・憲章 > 快適な学内環境の構築 > ハラスメントの防止  
<http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policy/environment/harassment/>

## 4. 学修指導にあたって

### (4) コンプライアンスについて

コンプライアンスという単語には、「承諾」や「服従」などの意味もありますが、ここでは国の法律や大学の諸規則、社会的規範や倫理などを遵守して諸活動を遂行していくことの意味で用います。先に記した個人情報保護やセクシュアルハラスメントの防止なども遵守すべき事柄のひとつです。他にも、知的財産権（著作権・特許権など）の保護や、研究費の不正使用防止など、大学が日常的に教育・研究活動を遂行していく上で遵守しなければならないルールは様々にあります。また、広い意味では、大学が掲げる理念や目標・方針も大学構成員の行動規範となるべきものであり、遵守すべき事柄のひとつです。

特に、島根大学は国立大学法人として、その運営予算の多くを国（国民）から交付されて諸活動を行っている機関です。TAのみなさん、ピアサポーターのみなさんに支給される謝金についても、学生が支払った授業料や国民の税金等を元にした大学予算から支給されています。つまり、指導を受ける学生に対する責任があるとともに、社会に対しても一定の責任を果たすことが求められます。例え国の法律や大学の規則に定められている違反行為ではなくても、その行動が他者からはどのように見られているだろうか、という自覚をもって業務にあたるよう心がけて下さい。

また、教職員や先輩から指示があったとしても（あるいは指導学生から要求されたとしても）、法令や規則、倫理に反する事柄については拒否する姿勢を持って下さい。もし拒否しづらい場合、自分では適否が判断しづらい場合は、ひとりで抱え込まずに第三者に相談しましょう。

島根大学のコンプライアンスについて詳しく知るには、大学HPやみなさんに配布されている「履修の手引き」に記された規則などを読んでみて下さい。

※参照：島根大学ウェブサイト

TOP > 大学紹介（※理念や目標・方針に加えて、個人情報保護や環境への取組など）

<http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/>

TOP > 研究・産学連携 > 島根大学における公正な研究遂行のための取り組みについて

[http://www.shimane-u.ac.jp/research/illegal\\_prevent/](http://www.shimane-u.ac.jp/research/illegal_prevent/)

TOP > 教育・学生生活（※学生生活に関する事柄、相談窓口など）

<http://www.shimane-u.ac.jp/education/>